



美博トピック展示

「伊那谷の富士信仰と旅」を開催します

会期：令和3年10月9日(土)～12月12日(日)

美術博物館と歴史研究所の共催で、美術博物館にてトピック展示「伊那谷の富士信仰と旅 一不二道信者松下千代と仲間たち一」を開催します。

伊那谷では、江戸時代後期に「不二道」という富士信仰に基づく民間の宗教運動が盛んになり、ここから信州各地にひろまりました。明治時代に創立された大日本実行会も、これに端を発しています。

不二道は質素・勤勉・孝行・助け合いなど日常生活での道徳の実践と、男女の対等な立場での和合を勧め、信者たちはこれによって心身の不調も、家庭や町村のトラブルも解決できると信じました。また、同じ志をもつ人々が多くなれば世の中全体が良くなると考えて、教えをひろめようとした。その先頭に立ち、信州の信者たちのリーダーとして活動したのは、飯田で商家をいとなむ松下千代という女性でした。松下家に伝わる多くの文書や遺品は、現在「松下祐輔氏所蔵文書」として歴史研究所に寄託されています。

今回のトピック展示では、松下家に伝わる文書や遺品を中心に、千代と仲間たちの旅に焦点を絞って、伊那谷の富士信仰を紹介します。不二道の信仰と旅は深く結びついていました。たとえば、信者にとって富士参詣の旅は一生忘れられない経験となりました。信者たちはほとんど徒歩で旅し、橋のない川では渡るのに苦労しました。街道の要所には旅の女性を厳しく取り調べる関所や番所もありました。また、不二道は地域ごとの信者集団が横につながるネットワーク型の組織だったため、千代をはじめとする各地の世話人はたえず連絡を取り合う必要があり、江戸や京都など広い範囲を旅しました。

こうした信者たちの旅にまつわる展示を通じて、伊那谷の富士信仰と、江戸時代の旅の一端をご覧ください。

なお、本展示の企画と実施にあたり、宮崎ふみ子氏(恵泉女学園大学名誉教授)のご協力を得ました。



慈行三千壽像(松下千代)



御不二(富士)登山道中記

関連企画：美術博物館 文化講座

◆10月31日(日)

「伊那谷の富士信仰
一不二道信者松下千代の旅一」

講師：宮崎ふみ子氏

◆11月14日(日)

「大日本実行会と伊那谷における世直しの思想」

講師：松上清志氏(美術博物館評議員)

※どちらも、会場は美術博物館講堂、時間は13:30～15:30

※事前申込制。開催日の2週間前より美術博物館(Tel.0265-22-8118)へお申し込みください。

12月18日(土)には、宮崎ふみ子氏とアン・ウォルソール氏(カリフォルニア大学アーバイン校名誉教授)をお招きして、ワークショップ「下伊那の宗教文化ネットワーク 一松下千代と松尾多勢子を中心に一」を開催します。詳しくは次号でご案内します。

第18回飯田市地域史研究集会を開催しました

暮らしのなかの景観—その歴史と継承—

先月開催した研究集会「暮らしのなかの景観—その歴史と継承」について振り返ります。

今回の研究集会は、コロナ第五波のさなかで開催され、歴史研究所としては初の試みとなるインターネットによるオンライン会議システム(ZOOM)を利用した研究集会となりました。事前に市役所の会場参加をお申し込みいただいた方の中には、オンライン参加に切り替えられない方も多かったようです。昨年から延期していたテーマであり、再延期ができないなか、やむを得ず、オンラインのみの開催となったことについて、ご理解いただけますと幸いです。

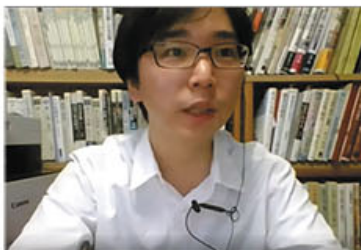
さて、初日の第一部「景観の歴史と文化—国際比較の視点から」では、法政大学の陣内秀信さんと京都工芸繊維大学の大田省一さんにご登壇いただき、アジアとヨーロッパの景観のちがいといった基本的なことから、景観に対する市民意識、イタリアのテリトリーオという地域の見方、また歴史的に育まれた庭園や風景へのまなざしについて学びました。さらに顧問研究員の吉田ゆり子さんから、両報告に対するコメントに加え、遠山谷の古絵図や古地図を読み解き、近世末から近代における山林資源の歴史と景観の変化についてのご報告をいただきました。



陣内秀信さん



大田省一さん



中尾俊介さん

つづいて二日目の第二部「魅力ある景観をのこす・つたえる」では、研究員の羽田真也より、近世座光寺村の景観と社会構造に関する詳細な分析、横浜国立大学の中尾俊介さんより東京葛飾柴又を事例とした文化的景観の調査研究の方法についての報告がありました。また、宮田村教育委員会の小池勝典さんより宮田宿の歴史的景観保全の取り組み、飯田市下久堅 九如亭の宮井啓江さんより地域にひらいた古民家カフェの活動についてお話しいただきました。



吉田ゆり子さん



小池勝典さん

このように、多角的な視点から暮らしのなかでつくられる日常景観の現在と過去を考えることが、今回の研究集会が意図したものです。オンラインの会場からは、専門家や生活者の立場からさまざまな意見がよせられました。特に印象的だったのは、歴史の継承といっても、人口減少のなかで山林資源を良好な状態で維持することが困難なこと、あるいは景観そのものを維持することよりも、そこに暮らすひとびとの生活が第一であること等の意見です。こうした課題は、日本全国、あるいは世界のさまざまな地域でも共通する問題といえます。



福村任生



宮井啓江さん

今回のオンライン研究集会は、100名近くの多くの方にご参加いただき、盛況のうちにおえることができました。私自身としては、直面する地域の現実と向き合いつつ、研究実践や市民の景観保全の活動との連携をとおして、地道に考えつづけることが重要との思いをつよくなりました。

(研究員 福村任生)



羽田真也

今回の研究集会の録画映像はYouTube公開(右の二次元バーコードよりアクセス可)とDVDの窓口貸出にてご覧いただけます。また、10/9(土)~10/25(月)にりんご庁舎2階市民サロンにて今回のテーマに関するパネル展示を実施します。詳細については、飯田市HPのお知らせをご確認ください。

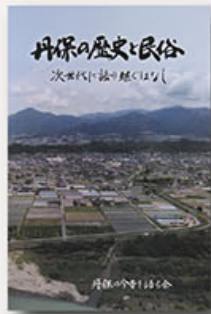


飯田歴研賞2021 受賞者コメント

飯田市歴史研究所では、前年度に発表された飯田・下伊那の地域史研究に関する優れた作品に対し、歴研賞をお贈りしています。2021年度は、以下の4つの作品が受賞されました。

なお、飯田市地域史研究集会において授賞式を行う予定でしたが、研究集会がオンライン開催となったため、式は延期となりました。日程は検討中です。受賞者の皆様からのコメントを紹介します。

● 著作賞 ● ^{たんぼ} 丹保の今昔を語る会編 『丹保の歴史と民俗 次世代に語り継ぐはなし』 (私家版、2020年8月)



丹保地区は、(上郷飯沼に開設される)リニア中央新幹線長野県駅の東南側に位置し、西は国道153号線、東は天竜川、北は座光寺境の土曾川、南は新戸川と一級河川に囲まれた約50%、350戸程の集落です。古代の住居跡が多数出土し、農地と宅地が混在する緩やかな二段丘の沖積地で、現在その一角がリニア建設に伴う移転代替宅地として造成されるなど、地区が日々変容しています。平成27年、地元シニアクラブで「地区の歴史や移り変わりを記録に残せないものか」と話題に上がり、これが切っ掛けで同クラブが中心となって地元の記録を残し後世に伝えていくことを決定。地域全体の協力を得て6年の歳月をかけ発刊に漕ぎ着けました。不足する事項や訂正箇所もありますが、当初の目的は達成できたと考えます。この度、思いがけず権威ある歴研賞を戴きましたことは、この上ない喜びであり、会を代表して厚く御礼申し上げます。

● 著作賞 ● ^{さいとう としえ} 齊藤俊江著 『長野県飯田下伊那の満洲移民関係資料目録』 (不二出版、2020年6月)



このたびは飯田歴研賞をいただき、大変光栄に存じます。この目録は、満洲移民を考える「後進の共有財産」として私なりにつくったものです。そして、「満洲移民とは何か」を問うてきた私の研究に協力いただいた方へのお礼でもあります。

私が満洲移民と出会ったのは30年前です。役場に残されていた満洲開拓関係文書や戦時中の出版物の記述と、帰国者から聞き取った凄惨な体験との差異に驚かされました。飯田下伊那から8400人が満洲移民として「満洲国」に渡り、約半分の人が亡くなり故郷の土を踏めなかったこと。この事実は悲劇では済まされず、国策を梃や飯田下伊那は、なぜ先取りして送り出したのかを調査するために、多くの方の研究成果をまとめたつもりです。また当時の役場資料や教育会資料などに加え、非文字資料のオーラル資料、写真も加え廃棄・散逸を防ぎ、保存の重要性を主張したつもりです。今後の研究に役立てていただければ幸いです。

● 奨励賞 ● ^{みぶ まさほ} 壬生雅穂著 『ミチューリン会機関紙に見る農業技術運動の展開と変容』 (玄武書房、2020年9月)



ミチューリン農法の研究は約20年前に通信制大学に入学した頃からのテーマで、受賞した拙著は通信制大学院の修士論文です。今までの研究を形にしたいと思い自費出版しました。

本業のある身にとって研究の進み具合より田んぼの水加減の方が大事というのが実情で、資料を読むのも考えをまとめるのも空いた時間に取り組むしかありません。そのようにしてできた論文を認めていただき、気恥ずかしくもあります。

自分はあくまでも素人であると思っています。アカデミズムのまねごとをして何かを成し遂げたいと思いたがらないように、そして行き詰まっても長続きするように、素人であることを自分に言い聞かせています。

ライフワークとなりつつあるミチューリン農法の研究は、締め切りのない夏休みの自由研究のようなものと思いつつ細々と取り組んでいます。

地元の尊敬する研究機関から賞をいただいたことに身の引き締まる思いです。ありがとうございました。

● 奨励賞 ● ^{いとう おさむ} 伊藤修著 「陸軍第十五師団歩兵第十七旅団機動演習」 (『信濃』第72巻第6号、2020年6月)



このような素晴らしい賞をいただけることに本当に感謝いたします。

古希を過ぎ、目が悪く、根気が切れ、物忘れが多くなったものにとって、この受賞は何よりの励みになります。

今、私は明治・大正・昭和期の軍隊が、どのように変貌を遂げていったのか、またそこに地域の人々や兵士がどのように関わったのか、といった点に関心をもっています。そのことを知るためには、役所などの行政機関、神社・公民館の蔵、また個人宅等に保管されている史料の発掘が必要であると考えています。

どこまでその目的に近付けられるか分かりませんが、今回の受賞を機にもう少し頑張ってみたいと考えています。ありがとうございました。

講師より

東京地検記録課で限定公開された「二・二六事件裁判記録」を精査し、2003年刊行した拙著『二・二六事件—青年将校の意識と心理—』(吉川弘文館)をもとに、天皇・天皇制のあり方が変容するきっかけとして二・二六事件を考えていこうとする試みです。北一輝の影響を受けた青年将校といった教科書の見解を否定し、出来るだけ一人一人の青年将校の思いを紹介しつつ、二・二六事件の全体像に迫っていきたい。とりわけ青年将校側に狙われた人々が、陸軍内の「統制派」と「皇道派」の「対立」の図式とは異なり、殺害されたのは渡辺錠太郎陸軍大将だけでした。それも陸相官邸に来てもらおうと行ったところ、渡辺から銃撃を受けたので殺害に及んだという事実は、この事件の構造を考える上で示唆に富んでいるのではないのでしょうか。

日時

10月16日(土)

第1講 13:30~15:00

1920年代—地域ファッション運動の萌芽と青年将校の思い—

第2講 15:20~16:50

三月事件、満洲事変、十月事件、五・一五事件と青年将校運動

10月17日(日)

第3講 10:00~11:30

「上長を推進して維新へ」路線と天皇周辺の反発の強まり

第4講 13:00~14:30

二・二六事件の勃発と鎮圧—近代天皇制国家の変容へ—

受講方法

①会場での受講(定員40名)

②ご自宅等のパソコンから受講

いずれも、10月8日(金)までにお電話(0265-53-4670)でお申込みください。

その際に受講方法等についてご案内させていただきます。※日曜日・月曜日・祝日は休所

☆飯田アカデミアは、歴史学における第一線の研究者に、最新の研究成果をわかりやすく紹介していただくものです。

会場

上郷公民館 2階講堂

資料代

500円 ※高校生以下無料

※1講義のみでもご参加いただけます。



定例研究会

会場：鼎公民館 3階講義室

時間：14:00~16:00 ※聴講ご希望の方は歴史研究所までお電話ください

17世紀清内路村にみられる
村役人の性格

開催日：10月30日(土)

報告者：坂本広徳 (市民研究員)

アン・ウォルソール著
『たをやめと明治維新

松尾多勢子の反伝記的生涯』を読む(書評会)

開催日：11月27日(土)

歴研ゼミ&ワークショップ10月・11月の予定

受講生募集!

会場：歴史研究所 研修室 ※満洲移民研究ゼミは10月は鼎公民館、11月は上郷公民館にて開催します。

建築史ゼミ

担当：福村任生(研究員)

10月15日/11月19日

(第3金曜日) 19:00~21:00

近世史ゼミ

担当：羽田真也(研究員)

10月13日・27日/11月10日・24日

(第2・第4水曜日) 18:30~20:30

近現代史ゼミ

担当：田中雅孝(特任研究員)

10月9日・23日/11月13日・27日

(第2・第4土曜日) 10:00~11:40

思想史ワークショップ

市民の皆さんが自主的に学び合う場

10月6日・20日/11月17日

(第1・第3水曜日) 19:00~21:00

※11月3日は祝日のため休講

満洲移民研究ゼミ

担当：本島和人(調査研究員)

齊藤俊江(調査研究員)

第118回 10月2日/第119回 11月6日

(第1土曜日) 10:00~11:40

地域史ゼミ

担当：太田仙一(研究員)

10月8日/11月12日

(第2金曜日) 18:30~20:30

ゼミ・ワークショップの詳細・お申込みについては、歴史研究所までお問い合わせください。TEL: 0265-53-4670

各種講座、アカデミア、ゼミについては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、発熱・咳などの症状のある方やマスクを着用されない方の受講はご遠慮ください。また、今後の感染状況により、延期または中止をする場合がありますのであらかじめご了承ください。

開所時間：午前9時~午後5時 休所日：日曜日・月曜日・祝日・12月29日~1月3日

メール配信への切り替えをご希望の方は、E-mail: iihr@city.iida.nagano.jp まで